

■ごあいさつ

地域とともに持続的に発展し ステークホルダーの 皆様からの期待と信頼に応える 企業グループを目指します



東武鉄道株式会社
取締役社長

都 筑 豊

■社長就任にあたって

2023年6月23日に取締役社長に就任いたしました。

東武グループでは、かねてより重要課題として「沿線地域社会の持続的発展」を掲げ、地域の課題解決と地域との持続的発展を目指してまいりました。

私自身は長年、東武グループの基幹事業である鉄道事業に携わってまいりました。これまでの経験を最大限に活かし「人にやさしく 人と地域が共に輝きつづける社会」の実現に向け、ステークホルダーの皆様からの期待にお応えできるよう全力で取り組んでまいります。皆様のご支援をお願い申し上げます。

■サステナビリティ経営

東武鉄道では創業当初より、両毛地域で産出した生糸の鉄道輸送を通じて地域産業の発展を支援し、その後は日光・鬼怒川エリアの観光需要拡大や、通勤・通学需要に応える複々線化事業等により、経済成長の一翼を担ってまいりました。さらに、東京スカイツリー®建設による社会インフラの整備などを実現し、社会の発展と事業の成長を両立してまいりました。

今日、企業が持続的に発展・成長するためには、企業経営において重要なESG(環境・社会・ガバナンス)の観点から、企業活動を通じて社会課題の解決を図るという社会との共生が求められています。東武グループでは、「東武グループのサステナビリティの考え方について」において、地域社会の持続的発展、環境負荷低減、多様な社員の「能力と可能性」の向上などの特定したマテリアリティ(重要課題)と、課題解決により社会の発展と企業価値の向上を持続的に創出するプロセス(価値創造プロセス)を掲げ、「人にやさしく 人と地域が共に輝きつづける社会」の実現を目指してまいります。

■社会との関わり

鉄道事業においては「安全」が事業の根幹であることを前提に、安心・便利で快適な輸送サービスを提供することを社会的使命と捉え、バリアフリーや安全性向上に向けた設備やその他ソフト面でのサービス充実のほか、気候変動リスクに備えた施設の強靱化などに努めています。また、輸送サービスを活用した地域社会における

課題解決を通じ、地域活性化を目指して各種施策に取り組むほか、沿線地域にお住まいの皆様や自治体等と一体となり、沿線の魅力発信に注力しております。

開発事業及びグループ各社の事業におきましては、沿線地域の皆様の日常生活のサポートを通じて地域の発展を目指しております。様々なニーズにも対応したサービスを提供するなど事業の着実な遂行を通じて地域の持続的発展を実現してまいります。

■環境負荷低減への取り組み

東武グループでは、気候変動による洪水、巨大台風、土砂災害等の異常気象が激甚化・頻発化する中で、それらが事業活動に大きな影響を及ぼすことを課題として捉え、マテリアリティ(重要課題)として、「環境優位性の更なる向上等による環境負荷の低減」を掲げ、各事業を推進しております。これに関連して当社では、「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)」の提言に賛同し、当社における気候関連の「ガバナンス」「リスク管理」「戦略」「指標と目標」情報を開示するとともに、環境負荷低減のための各種取り組みを推進してまいります。

また温室効果ガスの削減にあたっては、取締役会を中心としたガバナンス体制のもと、排出量の把握及び公表をしているほか、2050年における脱炭素の実現に向け、様々な取り組みを実施しております。このような東武グループの取り組みについては環境影響を管理するためのグローバルな情報開示システムを運営しているCDPにおいて、適切にマネジメントがなされている旨の評価をいただいております。

引き続き、東武グループに関わる皆様からの期待と信頼に応えるべく、社会や環境への取り組みを進めながら、持続的な沿線価値と企業価値のさらなる向上を図ってまいります。

本報告書の発行を通じ、情報を積極的に開示することでステークホルダーの皆様とのコミュニケーションに努めたく、忌憚のないご意見・ご感想をいただければ幸いに存じます。